

25 YEARS

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

年次報告書 2021

2021.2.1-2022.1.31





いま、この瞬間も、ピースウィンズ・ジャパンのスタッフは、世界中で問題解決の最前線に立っています。

2021年度のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動をまとめた年次報告書が完成しました。日頃のあたたかいご支援とご協力に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻というニュースが世界を駆け巡りました。私たちは侵攻直後に調査を開始し、すみやかに緊急支援を実施。現在も活動を続けています。困難な状況に希望を失うことなく、国内外のあらゆる課題の解決に、スタッフ一同、挑戦を続けます。引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ロシアによるウクライナへの軍事侵攻。多くの命が犠牲となり、多くの家や建物が破壊され、故郷から避難している人や避難できずに国内にとどまっている人が数多くいます。ピースウィンズ・ジャパンは、侵攻直後から支援を開始。今後、長期にわたり支援を続けていきます。どうかウクライナの人びとが笑顔を取り戻すまで、ピースウィンズ・ジャパンとともにご支援ください。

これまでの活動レポートはこちら

ピースウィンズ ウクライナ 検索

<https://peace-winds.org/support/ukraine>

UKRAINE



SPECIAL DIALOGUE

令和時代の災害支援イノベーション — ピースウィンズ・ジャパン25周年スペシャル対談 —

1996年2月、NPO法人ピースウィンズ・ジャパンが誕生。遡ること1ヵ月、1996年1月にヤフー株式会社が創業。二つの法人は同じ時代を歩み、共に社会に大きなインパクトを与えてきました。25周年を記念し、ヤフーの小澤隆生社長とPWJの大西健丞代表理事のトップ対談が実現。四半世紀を振り返り、これからの時代を先読みし、二人は何を語り合うのでしょうか—。

現地ウクライナで分かった 本当に必要な支援

大西 お久しぶりです。小澤さんとは2009年、ピースウィンズ・ジャパンの姉妹団体であるCivic Force(災害時に企業・NPO・行政等が連携して迅速に支援するためのプラットフォーム)の理事に就任いただいた後のお付き合いで、最近まで震災復興も含めてご尽力いただきました。今日はよろしくお願いします。

小澤 こちらこそよろしくお願いします。大西さんは、先日ウクライナに行かれたと聞いて驚きました。

大西 はい、(2022年の)ゴールデンウィークごろ2~3週間かけて、ウクライナをぐるっと回ってきました。1999年のコソボ紛争終結以降、もうヨーロッパで戦争はないだろうと思っていたのですが、まさかこんな時が来るとは思いませんでした。今回、戦闘の最前線までは行きませんでした。ミサイルが飛んできて防空壕へ入るのは日常茶飯事でした。キウウの北や東部にある、破壊された病院を多数訪問。病院がないと病人が放置されてしまうので、「学校より病院から直してほしい」と言われたんですね。私たちは、医師も含めた専門家チームを派遣し、病院施設の復旧に向けた調査をしている段階です。また、医薬品が不足していたので、100か所以上の病院にEUで購入した医薬品を届けてきて、Yahoo!ニュースでも記事にさせていただきました。

小澤 さすが、行動する男。

大西 現地に入っても大丈夫だと思ってはいましたが、ハードな紛争地帯に初めて行くスタッフもいたので、まずセキュリティのチェックも含めて自分が行くしかないと思ったんです。紛争や災害ってそれぞれ状況が違うので、行ってみて気づくことも多いんです。

小澤 さすが現場主義、驚きました。現地の生の声や、日本のNGOがウクライナで活動している事実を、私たちプラットフォームが多の人に知らせなければならぬですね。ピースウィンズ・

ジャパンの活動について伝えることで、よりリアリティーのあるウクライナ事情や必要な支援の情報を届けたいです。お話を伺っていて、支援すべき対象を確定させることは本当に大事だと改めて思います。先ほどの病院のお話でも、言われてみれば病院が最優先というのは分かりますが、「AとBとCと病院」のうち何が優先か判断に困った時、「病院だ」と言い切ってくれることが重要。支援先の切り分けを判断するには、日本には遠すぎます。

大西 ほかに必要な支援といえば、燃料や輸送手段ですね。ロシア軍が燃料貯蔵タンクと輸送部門を徹底的にミサイルで狙ってくるので、燃料が不足します。都市部には月1万円ほどの年金で暮らす人たちが結構いるのですが、彼らに食べ物が届かず困っていました。ウクライナはもともと農業が盛んな国なので、農産部に食料はあるのですが、燃料がなく都会に運べません。仮に食料を運べたとしても値段が高くなっているため、月1万円では買えないのです。そんな状況もあって、燃料やトラックなど輸送に関するものをリクエストされました。今後、日本政府が援助するとしたら、日本は車で有名な国で、中古でもいいから、ヨーロッパ市場のトラックを買い付けて渡せば感謝されると思います。当然ですが、現地ではお金よりモノが喜ばれるんです。

小澤 現地へ行って、本当の情報を取ってくるのがいかに大事か。お話を伺っていて思い出したのは、3月11日の2日後、一緒にヘリコプターで気仙沼・石巻に入りましたよね。避難所へ行って必要なものをヒアリングしよう。あれがずっと続いているんですね。

大西 そうなんです。次に日本で大きな災害が起きた際にも、先に調査チームを出して、生で見た話をもとに支援していきます。

大規模災害に備えたネットワーク構築

大西 そろそろ嫌な予感と言いますか、確率論から言っても、東京も含めて大規模災害を警戒すべき時期ですね。私たちCSO(市民社会組織)は規模が小さいですが、ヤフーという大



それがプラットフォームとなった瞬間、取り扱えるイシューと解決策の幅が一気に広くなります。社会のさまざまな難題に必要な解決策を持っていくというのは、まさにプラットフォーム型発想のNGO。素晴らしいですね。ヤフーもずっと「プラットフォーム=駅」であり、行きたい人と目的地をつなぐ場所。ニーズとサプライを結びつけることを、25年間、同じモデルでやってこられたのは、時代にマッチしていたからだと思っています。

大西 25年間でヤフーは大きく成長しましたが、ソーシャルな

きなプラットフォームなら、大規模災害に対してさまざまな備えができそうです。ヤフーでお持ちのビッグデータは、医師の配置や、医療ケアが必要な人たちの誘導などに活かせそうです。

小澤 そうですね。ヤフーは社会インフラ化しているので、まだまだできることがあると思います。まず、災害時に一番必要なのは、正しい情報を的確に届けること。何が起きているのか、どこに避難すれば良いのか。災害が起きた時はもちろん、起きる前から備えに関する情報も大切です。また、Yahoo!トラベルや一休.comには多くの契約しているホテルや旅館があるので、被災者の受け入れについて協力を要請することもできるかもしれません。また、救援物資に関しても、Yahoo!ショッピングの仕組みを使って、被災地で欲しい物リストを登録してもらい、他の地域の方が物資を送るということもできると思います。本当に役に立ちたいと思っていますし、できることから準備し、実装していきたいです。

大西 以前に現場で物資が手に入らないケースがあったため、2017年、ヤフーとNPO・CSOでSEMA（企業・CSOが協力して物資を迅速に届ける仕組み）という新しいネットワークを作り、ヤフーグループのアスクルをはじめ多くの企業から必要な物資を送ってもらえるようになりました。今聞いたお話だと、支援したい人が被災者を直接支援できる仕組みができそうなんです。今後の展開としては、寄付金を活用し、被災者に電子クーポンを発行して、それを宿泊や食事に利用してもらったり、逆に業者の方に被災地へ出張してもらったりする方法もありますね。政府が出す緊急援助のスキームにも入れられるのではないのでしょうか。

小澤 おっしゃる通りで、東日本大震災の時にCivic Forceに関わり、企業や個人の方から評価いただいたことのひとつが、被災地にいち早く必要なものを届ける仕組みでした。緊急時には、「Civic Forceなら今日寄付をいただければ明日トラックが走れます!」という迅速な動き方が一番求められるのです。



PROFILE
1967年5月29日生まれ。大阪府出身。NGOピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の代表理事。国内災害支援のシビックフォース設立に携わる。また、アジア太平洋の総合支援地域国際機関アジアパシフィックアライアンスCEOも務める。ダボスヤンググローバルリーダーに選出。

また、寄付したい人がどこに支援すべきか分かりにくいというのも難題ですが、私たちは「マッチングプラットフォーム」として、Yahoo!ショッピングなどのインフラを活用いただけるのではないかと考えています。政府や自治体で足りないものがあれば、民間の力で相互に助け合いたいですよね。

大西 発災時の仕組みづくりに関する勉強会ができればいいですね。実はそろそろ話し合えないとまづいと思っていました。

小澤 ぜひ! 現在、災害時にわざわざサービスを立ち上げるのではなく、既存事業をいかに自然な形で活用できるかを議論しています。イメージとしては、自動販売機の飲み物が災害時に無料で出てくるように、Yahoo!ショッピングや一休.com、ヤフオク!が災害モードに切り替わるといったものです。

ソーシャル・イノベーション・プラットフォームとして 多様な社会課題に立ち向かう

被災者ケアの新しいスタンダードとは

大西 私は、日本の被災者に対するケアをレベルアップしなければならぬと思っています。なぜなら、現在の基本形となっている、体育館などを避難所として使うシステムを整えたのは、関東大震災の時だからです。令和のスタンダードが、約100年前の関東大震災の時のままでいいのでしょうか。例えばイタリアでは、発災から3~4日後には各ファミリーにトレーラーハウスが割り当てられ、キッチンカーがたくさん来て、各自クーポンをもらい、自分でメニューを選んでバランスよく食べられます。一方、日本では毎日おにぎりやカップ麺。そんな食生活では、健康な人も病気になってしまいます。就寝時は、パーティーがあるといっても雑魚寝。2016年の熊本地震では、ペット連れの避難者が「ペットを置いてこい」と言われたそうです。日本が先進国なら、被災者ケアも先進国並みに引き上げたい。官も民も全力でやれば、新しいスタンダードが作れると思います。南海トラフや首都直下地震への備えに関しては、まだ手が回っていない現状もありますが、最も力強い集合体としてのヤフーに頑張ってもらいたいと思っています。

小澤 その辺りは大西さんはじめ皆さんからアドバイスいただいて、しっかり検討、実現していきたいと思っています。

大西 今日はもう25周年の対談という意味だけでなく、今後の大規模災害に備えて、被災者ケアの21世紀型スタンダードを政府に提案するための第一歩を一緒に踏み出せたらと思っています。

小澤 本当にそうですね。ここ数年のコロナ禍がいろいろなことを考えるきっかけになっていますが、会社に社員全員がいない状態が続いていますので、危機対応の方法を私たち自身も考えなければならないですね。

大西 ヤフーは出社しなくても良くなっているんですね?

小澤 9割以上が在宅勤務です。災害時は、皆さまに適切な情報を提供する必要がありますが、それを支える社員が、安全に稼働できなければ実現が難しい状況です。リモートワークの状況下における緊急対応は、大きな課題になるかもしれません。

PWJが目指すソーシャル・イノベーション・プラットフォーム

大西 先ほど「マッチングプラットフォーム」というお話がありましたが、実はピースウィンズ・ジャパンは「ソーシャル・イノベーション・プラットフォーム」を目指したいと考えています。私たちは「国際協力NGO」としてスタートしましたが、国際協力だけのモノトーンな組織になってしまうと、優秀な人材がだんだん来なくなるという懸念から、より幅広い社会課題に取り組んでいます。海外への関心がどんどん小さくなり、国内の課題や災害対応の必要性が高まる中で、それらすべての相乗効果を見ながら、自分たちなりにイノベティブにチャレンジできるプラットフォームを目指そうという発想です。私たちの場合は資本力がないので、人がすべて。多様な課題の解決に挑むからこそ、多様で優秀な人が集まり、そういう人材が集まってこそ、多様な難題に立ち向かえるので。

小澤 自分たちが解決の主体として動く場合、資金も人的リソースも限られているので、シングルイシューになりがちですね。

意味で、今後リーダーとしてどうヤフーを進化させたいですか?

小澤 プラットフォームの一番重要な役目は、正しいイシュー、正しい対象を見つけることだと思っています。そのイシューと解決策を見つけてくる力は、今後ますます多様化する時代に求められると思うし、そういう力を持つリーダーは希少価値があると思います。プラットフォーム型のリーダーとして、私も頑張りますし、大西さんにも最先端でご活躍いただきたいなと思います。

大西 プラットフォームというものが出現してまだ20~30年しか経っていませんが、それがリーダーシップの形をも変容させていると思うんですね。小澤さんにはプラットフォームのリーダーとして、これからも社会の改善に携わっていただきつつ、ビジネスにも反映していただきたいと期待しています。

対談の動画はこちら
<https://youtu.be/Y0ZPirTrG-I>



ピースウィンズ・ジャパン
代表理事 兼 統括責任者
大西 健丞
KENSUKE ONISHI
災害支援に
21世紀型スタンダードを



ヤフー株式会社 代表取締役社長
社長執行役員 CEO(最高経営責任者)
Zホールディングス株式会社 取締役 専務執行役員
E-Commerce CPO
小澤 隆生
TAKAO OZAWA
ヤフーのネットワークを活かし
本当に役に立ちたい

PROFILE
1995年、CSK(現SCSK)入社後、1999年にビズシークを設立し、2001年に楽天に売却。2003年のビズシークの吸収合併により楽天に入社。オークション担当役員に就任。2005年に楽天野球団取締役事業本部長。2011年に設立したクロコスをヤフーに売却し2012年にヤフーへ入社。2013年よりヤフー執行役員としてヤフーショッピングを担当。2018年4月より常務執行役員コマースカンパニー長に就任し、eコマース、トラベル事業、金融事業を管轄。2019年6月にヤフー取締役 専務執行役員COOに就任し、コマースとメディアの全事業を管掌。2022年4月に現職に就任。

25 YEARS



SINCE 1996
設立

25周年

TOTAL SUPPORTING COUNTRIES
累計支援国

36の国と地域



- | | | |
|---------|--------|---------|
| アフガニスタン | アメリカ | イラク |
| イラン | インド | インドネシア |
| ウガンダ | ウクライナ | エチオピア |
| ケニア | コソボ | シエラレオネ |
| シリア | スリランカ | タイ |
| トルコ | トンガ | ニジェール |
| ネパール | ハイチ | パキスタン |
| パラオ | パレスチナ | バングラデシュ |
| フィリピン | ミャンマー | モザンビーク |
| モンゴル | リベリア | 韓国 |
| 北朝鮮 | 台湾 | 中国 |
| 日本 | 東ティモール | 南スーダン |

2022年3月10日現在

支援のプロを 現場に送り続けた 25年。

ピースウィンズ・ジャパンは、1996年のイラクでの支援開始から25年間で、36の国と地域で活動し、1,900万人以上に支援を届けてきました。

NUMBER OF STAFF
スタッフ数

453人



TOTAL BENEFICIARIES
累計受益者 2022年1月末現在

19,759,509人

NUMBER OF RELEVANT SDGs
関連SDGs数

16個



必要な人々に、必要な支援を。

私たちピースウィンズ・ジャパンはこの言葉を合言葉に、国内外を問わず、あらゆる社会問題に取り組んでいます。中核となる活動は「海外事業」「災害支援事業」「犬の保護・譲渡事業(ピースワンコ・ジャパン)」の3つ。また、佐賀伝統工芸振興支援や過疎地での診療支援など地域創生事業にも取り組んでいます。



海外事業

紛争や貧困、災害などによる人道危機や、生活の危機にさらされた人々の支援を1996年から続けており、これまでに世界36の国と地域で活動してきました。

NUMBER OF SUPPORTERS

延べ支援者数
2021年度



124,685人

NATIONALITIES OF STAFF

スタッフ
国籍

日本、イラク、ネパール、ロシア、ヘルツェゴビナ、パキスタン、シエラレオネ、南スーダン、オーストラリア、ケニア、ウガンダ、モザンビーク、スリランカ、ミャンマー、東ティモール、ハイチ、パラオ、フィリピン(2021年度)

17カ国



災害支援事業

一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。

TOTAL FREQUENCY OF DISPATCH

累計出動回数

62回



1996年以降
空飛ぶ捜索医療団構成団体の活動を含む

NUMBER OF DISASTER COOPERATION AGREEMENTS

災害連携協定締結団体数

44カ所



空飛ぶ捜索医療団構成団体の協定先を含む



保護犬事業

人間の身勝手によって生み出される犬の殺処分をなくし、ペットと人間の共生を実現する目的で運営される、犬の保護・譲渡事業です。

TOTAL NUMBER OF DOGS RESCUED

命を救った犬の数

7,075頭

2022年1月末現在



NUMBER OF CONSECUTIVE DAYS WITHOUT
SLAUGHTER BY GAS CHAMBER IN HIROSHIMA

広島県で犬の殺処分機が
動いていない日数

2,131日間

ガス室による殺処分



海外事業

OVERSEAS OPERATIONS

命を見捨てない。 世界の平和をあきらめない。

02 SYRIA 04 PALESTINE 01 IRAQ 03 AFGHANISTAN



IRAQ

01 イラク

活動期間 1996年～現在



イラク北部では、シリア難民を対象に生計支援を兼ねたシェルターやインフラ改善支援を、国内避難民や帰還民を対象に水衛生支援や生計支援、職業訓練を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症対策指定病院の設備整備やワクチン保管倉庫改修を通じて新型コロナウイルス感染拡大防止に貢献しました。



SYRIA

02 シリア

活動期間 2013年～現在



シリア国内の提携団体と共に、戦闘で破損した住居と校舎の修繕支援、国内避難民や避難場所から戻った世帯等を対象に食料や衛生用品を配布しました。また新型コロナウイルス感染拡大に困窮する人々および2020年に発生した大規模森林火災の被災者に物資を配布しました。



AFGHANISTAN

03 アフガニスタン

活動期間 2001年～現在



長年の紛争や自然災害、さらにコロナ禍で悪化した食料危機に直面する人々や、2021年8月のタリバンによる政権掌握後に食料安全保障上の困難を抱える、女性だけの世帯や病気・障害を持つ人の世帯等に緊急食糧支援を実施しました。また、タリバン統治下で迫害の恐れのあるアフガニ人の日本への退避を支援しました。



PALESTINE

04 パレスチナ

活動期間 2015年～現在



ガザ地区で若者対象の職業技術訓練、入学前の子どもの健康診断や地元医師による栄養の治療、保護者や幼稚園教員への保健栄養の研修を行いました。また、2021年5月のイスラエル軍による空爆で被害を受けた世帯へ緊急物資支援、子どもの心理社会的ケアや防寒キットを提供しました。



05 南スーダン

活動期間 2006年～現在

国内避難民キャンプや帰還民受け入れコミュニティで給水設備の整備、衛生啓発活動を実施しました。また害虫被害への農業支援として研修や農具・種子の配布をし、新型コロナウイルス感染症対策支援として国内避難民キャンプや医療施設、公共施設での給水支援や感染予防対策研修、衛生キットの配布等を行いました。



06 ケニア

活動期間 2012年～現在

北東部の難民キャンプでは、難民を対象に仮設住居の建設や若者への起業支援を行いました。また北西部の難民キャンプ・居住地区では、難民への現金給付型支援を通じた恒久住宅建設や、住民参加型の野外排泄廃絶活動、布製生理ナプキン製作等を実施しました。また、トゥルカナ郡における害虫被害抑制・復興支援を行いました。



09 スリランカ

活動期間 2009年～現在

トリンコモリー県内の内戦帰還エリアで、農業用灌漑設備の修繕・設置を行い農作物の収量増加に貢献しました。また、同地域の有機農業促進事業では、前年同様100軒以上の農家に有機農業技術・市場開拓トレーニングなどを行いました。また前年度支援農家から約50名の農家が有機認証を取得しました。



10 ミャンマー

活動期間 2013年～現在

乾季になると安全な水の確保が困難なカレン州の村落部を対象に水供給施設を建設しました。施設の維持管理講習や手洗い等の衛生講習も行いました。また州内の国内避難民キャンプでは水衛生キットを配布しました。2021年2月の政変以降、生活に苦しむ人々に食料や浄水器を、妊婦に出産キットを配布しました。



07 ウガンダ

活動期間 2016年～現在

ウガンダ北部と西部の難民居住地区に住む難民と地元地域の人々を対象に、学校のトイレ建設や手洗い設備の設置、女生徒への月経衛生支援などの給水・衛生普及活動を行いました。また、弱い立場にある女性保護のための支援センターの建設と相談窓口の開設、女性の社会参画を促す職業訓練を実施しました。



08 モザンビーク

活動期間 2019年～現在

2つのサイクロンが直撃したソファラ州で、約2万人の被災者に対する緊急人道支援として食糧、生活用品の配布と衛生活動、手動ポンプ式の深井戸建設等を行いました。一方、北部のカーボ・デルガド州では武装勢力の攻撃により避難してきた人々に対し給水環境の整備と衛生活動、農業を通じて生計の回復を支援しました。



11 ネパール

活動期間 2015年～現在

2015年地震の震源地シンドゥバルチョーク郡で、安全な水を確保するための給水施設を建設しました。さらに、農家の生計向上を目指し、野菜の栽培技術や販売促進の支援を継続しました。4月以降、新型コロナウイルス感染者数の急増に伴い、感染拡大を防ぐため、隔離センターを新設し既存施設の設備を拡充しました。



NGO相談員



2021年度も、国際協力分野で経験と実績をもつ日本のNGOとして外務省よりNGO相談員業務の委嘱を受けました。NGOの国際協力活動・組織について「NGO相談員」が質問に答え、国際協力関係のイベント等で相談業務や講演を行う「出張サービス」も日本各地で実施しました。



12 バングラデシュ

活動期間 2017年～現在

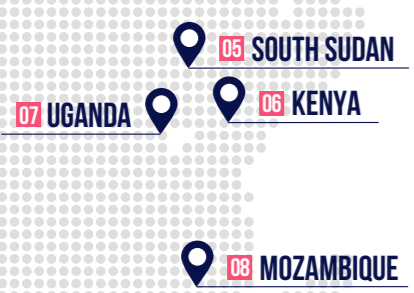
ロヒンギャ難民と難民キャンプ周辺住民を対象に、現地提携団体と診療所で基礎的医療サービスを提供しました。地域では、地元の人材を通じて健康啓発や情報提供をし、健康の維持・増進を図りました。また、キャンプ内の大規模火災では緊急支援物資を配布しました。



13 インドネシア

活動期間 2018年～2021年

2018年9月の地震・津波で被災したスラウェシ島北部において、農業再開のための灌漑用水整備、農地整備、種子の配布を行いました。また、自然災害に弱い村を対象に、次の災害に備えたリスク管理能力強化支援を実施し、6月にすべての事業を完了しました。





MONGOLIA

14 モンゴル



活動期間 1996年～現在

貧困や親の育児放棄などの事情で、養護施設「ヴェルビストケアセンター（VCC）」に保護され生活している45人の子どもたちへの支援を継続しました。



PHILIPPINES

15 フィリピン

活動期間 2021年～現在

2021年12月に発生した台風ライの被害に対応し、提携団体と連携した緊急事業実施に向け、情報収集や調整を開始しました。



PALAU

16 パラオ



活動期間 2021年～現在

2021年3月から主に離島を対象にした病院船による巡回検診・診療と非感染性疾患（生活習慣病）の予防体制の強化を目指す事業を開始しました。現地保健省及び国立病院と連携し、現地医療従事者への能力強化研修、そして離島での検診デモンストレーションを実施し、約30名の離島住民が検診に参加しました。



EAST TIMOR

17 東ティモール



活動期間 2003年～現在

4月に首都ディリを中心に発生した洪水の被災者に対する物資配布と道路や河川に堆積した土砂の撤去作業の緊急支援を行いました。また、コーヒーの世界的な需要が落ち込むことが予想されましたが、前年を上回る輸出量を達成しました。



14 MONGOLIA

15 PHILIPPINES

16 PALAU

17 EAST TIMOR

フェアトレード事業



コロナ禍で物流が乱れ、世界的なコーヒー価格の高騰など市場が混乱した一年でしたが、東ティモールピースコーヒー生豆はほぼ完売となりました。他の東ティモールコーヒーとの差別化のため、正規輸入証明書の交付を開始しました。ショップではアンケートで販売希望グッズを調査して製品化しており、好評をいただいています。



HAITI

18 ハイチ



活動期間 2018年～現在

南県で地域の災害対応能力の強化を目指し、災害に強いコミュニティセンター4棟の建設、施設管理指導、自然災害対応・衛生講習等を実施しました。また経済的自立と地域経済活性化のため、女性グループヘカシューナツの加工技術・販売指導を行いました。2021年8月の大地震では被災者へ緊急物資の配布等を行いました。



AMERICA

19 アメリカ

活動期間 2021年～現在

2021年12月にケンタッキー州を含む広範囲に被害をもたらした竜巻の被害に対応し、緊急支援を実施しました。ピースウィンズアメリカのスタッフがケンタッキー州メイフィールドの地元の団体を訪問し、避難センターの運営や食事提供などのサポートをしました。



19 AMERICA

18 HAITI

20 TONGA



HOW TO SUPPORT

「ピースサポーター」

になってPWJの活動全般を支えてください。

月々 1,200円～

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター 検索

<https://peace-winds.org/support/supporter>



TONGA

20 トンガ

活動期間 2022年～現在

2022年1月15日にトンガの北方に位置する海底火山で大規模な噴火が発生。噴煙や地震・津波により、建物の被害や通信障害などが発生しました。情報インフラが使用できなくなっていることから、けが人など詳しい被害の状況がわからないなかで、現地の提携団体と連携して情報を収集し、支援の準備を進めました。



2

災害支援事業

EMERGENCY DISASTER RELIEF



救いたい。 一秒でも早く、一人でも多く。

医療・レスキュー事業



空飛ぶ捜索医療団 ARROWS



空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"を運営し、月例訓練を通じた即応体制の強化、災害時を見据えた体制づくりを進めました。新型コロナウイルス感染症支援では、酸素センターやクラスター発生施設への人的支援、物資支援、さらに予防や発生時の対策のためのオンライン研修・相談会等を年間通じて実施しました。



西日本豪雨被災者支援



活動期間 2018年～現在

継続している岡山県倉敷市真備町での地域集会所の備品支援、地元団体の運営支援に加え、広島県安芸郡坂町、呉市天応町において、地元団体の運営支援事業を開始しました。地元の方々による活動、団体運営をサポートすることにより、地域コミュニティ再構築のサポートを継続しています。



東日本大震災被災者支援



活動期間 2011年～現在

宮城県南三陸町の交流拠点として地元団体によって運営されていた「晴谷驛(ハレバレー)」を、さらに地元の方々に再利用していただくために整備しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2021年度は利用を停止せざるを得ませんでした。地元の方々の利用再開を待ち望む声に応じていきます。



地域防災力強化



活動期間 2020年～現在

米国政府の助成金を活用し、自然災害の多い日本の防災減災事業を実施しています。大きな災害にあっていない場所と被災地となった場所の方々の意見交換、視察、イベント等を通し、災害時、誰も取り残されることのない仕組み作りに取り組んでいます。



HOW TO SUPPORT

「ARROWSサポーター」

になって災害緊急支援活動を
支えてください。

月々
1,000円～

「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ARROWSサポーター 検索

<https://arrows.red/donation/>



2
災害支援事業

EMERGENCY DISASTER RELIEF

日本の犬の 殺処分ゼロをめざして。

3 保護犬事業 PEACE WANKO JAPAN PROJECT

犬・猫の保護・譲渡事業

活動期間 2010年～現在

広島県の犬の「殺処分ゼロ」の継続は2100日を超え、譲渡・返還数も累計3150頭以上に達しました。処分対象の犬の多くは野犬ですが、野犬の人慣れトレーニング方法の確立と習得に力を入れ、譲渡活動の効率化にも取り組んだことで、前年度に続いて収容頭数の減少を実現することができました。また、飼育環境の改善をめざして飼育スタッフの採用を増やし、犬舎増設の準備を進めました。



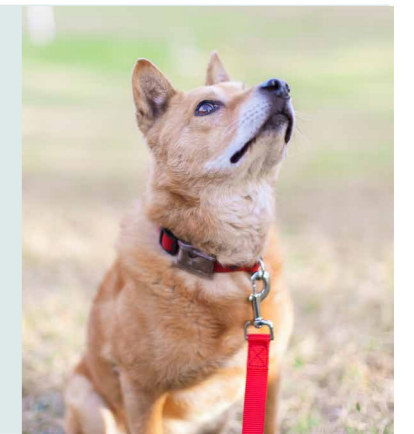
22名の新人スタッフと持続可能な「殺処分ゼロ」へ



今年度は日本と海外から「殺処分ゼロ」の志を持つ22名の新人スタッフが加わりました。野犬は保護した後、人に馴れてもらうことが不可欠です。チーフを中心にトレーニング動画を作成し、各犬舎ごとに人馴れトレーニングに力を入れました。スタッフの愛情と努力、そして支援者様のサポートで、2021年も他団体と連携しながら犬たちの命を守ることができました。さらに譲渡を進め持続可能な「殺処分ゼロ」の確立を目指していきます。

夢之丞引退 「ワンドリーム・プロジェクト」立ち上げ

2010年に殺処分される寸前で救出され、ピースワンコ・ジャパン誕生のきっかけとなった夢之丞。11歳を迎え災害救助犬を引退し、「日本の殺処分ゼロ」を目指すアンバサダーに就任しました。2021年は「夢之丞ファミリー（ワンドリーム・プロジェクト）」を立ち上げ、支援者様にも活動へのご参加を呼びかけました。全国ではまだ2万頭以上の犬猫が殺処分されています。今後、「殺処分ゼロ」を実現していくには、各地の保護団体の活動をサポートしていくことも必要と考えています。



老犬・病犬・障害犬のための取り組みを強化 うれしい卒業も

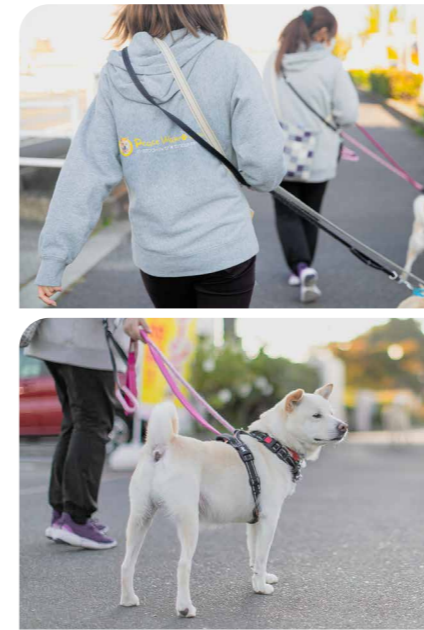
施設で暮らす譲渡が困難な老犬・病犬・障害犬も多くなってきました。ピースワンコでは介護や看護を学んだスタッフが最期までお世話をしています。2021年度はクラウドファンディングに挑戦し、彼らのための診察台や酸素機など必要な医療機器を調達しました。今後を見越して、介護・看護のための犬舎の充実も課題になっています。一方、このような犬たちを家族にという里親様のお申し出もいただくようになってきており、今年度は高齢・病気・障害がある犬たちが温かい家族の元へ卒業するうれしいニュースが続きました。



“ワンコと家族を繋ぐ” 譲渡センターの現場から

いつも温かいご支援、ご声援をありがとうございます。
おかげさまで2021年もたくさんのワンコの命を繋ぐことができ、それぞれ新しい犬生を歩み始めることができました。
保護当時は人に酷く怯え、皮膚や体がボロボロな子もたくさんいましたが、スタッフの献身的な努力、栄養価の高いフード、医療行為などにより、健康を取り戻し人からの愛情を感じるワンコへと成長を遂げてくれました。
また、昨今では障害を持つ子や老犬への理解も深まり、ハンデを持った子も数多くご家族のもとへ迎えられました。
愛情をたっぷり注いできたワンコたちが家族として迎えられる瞬間は、何にも代えがたい喜びに包まれます。
1頭でも多くのワンコの命を繋げるよう、スタッフ一同懸命に取り組んでまいりますので引き続き応援の程、よろしくお願いいたします。

譲渡マネージャー 上谷祐実



施設は現在、全国で8カ所

神石高原シェルターで保護し、健康状態を良くして、人馴れトレーニングを行った犬が、各譲渡センターで暮らしています。
スタッフが日常の世話をしながら、里親希望の方に保護犬の特徴や性格などを紹介しています。



01 神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と人がのびのびと遊べます。

ADDRESS
広島県神石高原町上豊松72-8

02 東京あきる野譲渡センター

東京都あきる野市上代継600番地
「わんだふるネイチャーヴィレッジ」内

03 世田谷譲渡センター

東京都世田谷区桜丘3丁目23-2
馬事公苑アーバンフラット1-A号室

04 湘南譲渡センター

神奈川県藤沢市辻堂元町6丁目20-1
湘南T-SITE1号館GREEN DOG内



05 生駒譲渡センター

奈良県生駒市北大和1丁目23-1
KS.CITY北大和1

06 岡山譲渡センター

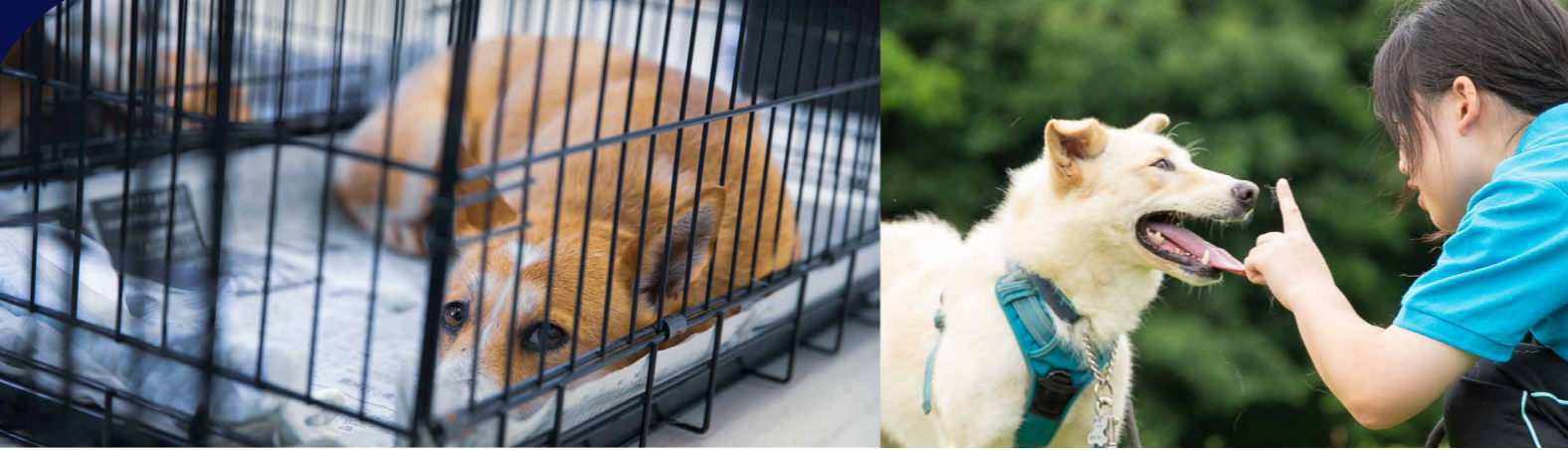
岡山県岡山市北区田中109番地103

07 福山譲渡センター

広島県福山市東深津町2丁目9-15

08 広島譲渡センター

広島県広島市西区観音新町4-14
ショッピングモール
「広島マリーナホップ」内



遺贈寄付でワンコをご支援いただいています。

第2回遺贈寄付ウィークに参加

9月13日の国際遺贈寄付の日にあわせて開催されたイベントです。身近な団体への「遺贈寄付」が広がっていることを紹介する企画も開催。支援者様も多数ご参加くださいました。



資料請求をいただいた方へ、「遺贈寄付」に関するお役立ち情報などをまとめたメールレターも発行しました。



遺贈寄付をしてくださった方々(希望者のみ)を記念する記念碑もドッグランのそばに作成しました。

倫理ガイドライン制定

全国レガシーギフト協会が2021年9月に「倫理ガイドライン」を作成したので、ただちに、そのまま団体の内規として遵守することを決めました。弁護士にも助言をいただきながら、安心してご相談いただける体制の整備に努めています。

業務提携、ネットワーク作り

支援者様からのご相談には「終活」に係わる様々な内容が含まれていることも少なくありません。そこで、広島銀行、READYFOR遺贈寄付サポート窓口などの業務提携を推進。金融機関や弁護士など専門家の方々との協力・意見交換も広げ、ネットワーク作りに取り組みました。

「遺贈寄付」とは



ご遺産から寄付されることを「遺贈寄付」と呼びます。いま、ご自身の「生きた証」として、遺言書を作成して応援したい団体に寄付される方が増えています。また、亡くなられた方を偲んで、相続人の方からご寄付をいただくことも少なくありません。

ピースワンコ・ジャパンにも、このような「遺贈寄付」をいただくことが増えました(2021年度は、ピースワンコで5件、団体全体では14件)。詳しい資料を作成し、法律に詳しい専任の担当者も配置して、ご相談を承っております。皆様の想いと現場のスタッフの想いをつなぐため、丁寧な仕事を心がけます。どんなことでもお気軽にご相談ください。

遺贈寄付ご相談係(マネージャー)

NOBUYUKI HARITA 榛田 敦行

PROFILE

前職は大きな法律団体の事務局として、患者様のサポートの仕事をしていました。「遺贈寄付」の可能性にひかれて入職。司法書士・行政書士の有資格者です(2022年6月現在、未登録)。趣味は音楽とハイキング。



各事業毎に「遺贈寄付」の詳しい資料も作成しています。



HOW TO SUPPORT

「ワンだふるサポーター」

になってピースワンコ事業を支えてください。

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。

ピースワンコ 寄付 検索

<https://peace-wanko.jp/support.html>



月々
1,000円~

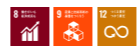


時代のニーズに対応する イノベティブなプロジェクトを作り続ける

佐賀伝統工芸振興

活動期間 2015年～現在

ふるさと納税事業では取り扱い事業者数が90となり、より幅広い返礼品の提供、伝統工芸事業者の認知度・収益向上に取り組んでいます。4年目となった商品開発プロジェクト「ピースクラフツSAGA EDITION」では、5つの窯元の特徴を活かした酒器を製作。伝統工芸事業者を対象にした助成事業も2年目となり窯や設備の修復等に活用いただきました。



ONLINE SHOP
オンラインショップをオープンしました！

9月には佐賀の伝統工芸品のみを扱ったオンラインショップを開設しました。事業者とセレクトした上質で購入しやすい、2万円以下の低価格帯の商品をラインアップし、プレゼントにも最適です。なかなかオンラインショップまでは手が回らないという事業者も多く、ネットではここでしか買えない商品も多数。収益はすべて伝統工芸支援活動に活用する、社会貢献型のオンラインショップです。

ピースクラフツオンライン 検索
<https://www.peace-crafts-shop.org/>

地域創生(神石高原町)

活動期間 2015年～現在

神石高原町の町立病院やへき地診療所で、医師、看護師が診療を支援し、新型コロナウイルスワクチンの接種にも協力しました。「神石高原ティアガルテン」の運営協力や、起業支援などを行う神石高原地域創造チャレンジ基金のサポートを続け、花粉症対策事業では町内に植えた広葉樹林の管理と追加植栽をしました。



HIROSHIMA

地域創生(瀬戸内・豊島)

活動期間 2014年～現在

瀬戸内海の豊島で、現代アートの書籍・資料を収蔵するライブラリーの建設を進めました。NPO法人現代アートプラットフォームと協力し、現代芸術家ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品を一般公開しました。また、アートの専門家や愛好者などを招き、交流の機会を提供しました。



SETOUCHI

SUPPORTER 企業や団体からのご支援

PWJは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視しています。今後も企業や団体の皆さまと連携を深め、より社会に貢献できる活動を目指します。

2021年度 支援企業・団体一覧

 栄研化学株式会社	 日本たばこ産業株式会社	 アマゾンジャパン合同会社	 ソフトバンク株式会社	 第一三共株式会社
 パナソニック株式会社	 シャディ株式会社	 特定非営利活動法人 nina 神石高原	 デッカーズジャパン合同会社	 岡山南ロータリークラブ
 一般社団法人MDRT日本会	 高橋尚子杯ぎふ清流 マラソン実行委員会	 株式会社大林組	 ハイチ友の会	 スマートニュース株式会社
 フィアット	 エールスペック株式会社	 フォーエバーリビング プロダクツジャパン	 メイベル 丸中製菓株式会社	 ヴィーナ・エナジー・ジャパン 株式会社
 城東開発株式会社	 株式会社SAKURUG	 株式会社アリミノ	 シチズン時計株式会社	 日本セイフティー株式会社
 ヤフー株式会社	 READYFOR株式会社	 株式会社Yogibo		

- 一般財団法人ホシザキ新屋財団
- ビーアークホールディングス株式会社
- 有限会社太井製作所
- バリュエンスジャパン株式会社
- 敦賀断熱工業株式会社
- 株式会社J-FUN
- 株式会社祐真
- 宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション 淀川クリスト教病院
- ブックオフコーポレーション株式会社「キモチと。」
- 株式会社ロワール
- 株式会社ドリームゲート
- 一般社団法人シェア基金
- Euromonitor International
- 朝日生命保険相互会社
- 株式会社コナイテッドアローズ
- 株式会社イーブックイニシアティブジャパン
- 株式会社日本能率協会マネジメントセンター
- ほほえみ株式会社
- 株式会社アークビルド
- J.S.Foundation
- Nordgreen株式会社
- 東武タワースカイツリー株式会社
- 株式会社ベネフィット・ワン
- サーモフィッシャーサイエンティフィック ジャパングループ
- 三井化学株式会社
- 株式会社ワットマン
- 一般社団法人全国カラオケ事業者協会
- 株式会社フレックスインターナショナル
- 住友機材株式会社
- 全国友の会
- 片山鉄建株式会社
- 株式会社ナガホリ
- NPO法人ハイチの会セスラ
- 株式会社東京サマーランド
- 株式会社プレーリードッグ
- 株式会社カラース
- 株式会社キリンビバックス
- 株式会社真和テック
- 株式会社マサコーポレーション
- 東京薬科大学学生ボランティア団体IVOLEA
- GMOリサーチ株式会社
- 買取専門店「ザ・ゴールド」
- 有限会社エコネットワークス
- 株式会社メディコム(月刊タウン情報トクシマ)
- 有限会社 渡辺巧芸社
- ロングランプランニング株式会社
- 笠原整形外科
- 一般財団法人PEACE DAY
- 株式会社クラシード
- 株式会社藤田商店
- 公益財団法人茨城県国際交流協会
- 5大陸走破プロジェクト
- 株式会社バリューHR
- 株式会社ギフティ
- BNPパリバ・グループ
- CeleValueTech株式会社
- CUBE INC.
- マクロビオティック salon PINO
- よしだ犬ねこ病院
- 株式会社ドンク
- 株式会社常陸屋
- 株式会社エクス
- 株式会社キネカ
- 株式会社ストラテジック・シナリオ
- 株式会社ビートレーディング
- 株式会社フランチパートナー
- 株式会社第一工業
- 株式会社ピーバイイー
- 明治産業株式会社
- マーレトレーディングジャパン株式会社

「ふるさと納税」もご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などPWJのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。

PWJ ふるさと納税 検索

<https://peace-winds.org/support/furusato>



2021年度 助成団体・パートナー団体



外務省・日本NGO連携無償資金協力/国際協力機構/米国国務省 Bureau of Population, Refugees, and Migration/
 USAID Bureau of Humanitarian Affairs/European Civil Protection and Humanitarian Aid/The Iraq Humanitarian Fund/UNHABITAT/
 UNHCR/UNICEF/UNWOMEN/フェリシモ基金/Give2Asia/ひろしま国際センター/日本国際協力財団/ジャパン・プラットフォーム/
 The JTI Foundation/Johnson&Johnson/クラレ財団/笹川平和財団

企業連携事例



ピースウィンズ・ジャパンの
企業連携初となる広告スポンサー



災害緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」と保護犬事業「ピースワンコ・ジャパン」は、「快適すぎて動けなくなる魔法のソファ」を展開する株式会社Yogibo様より、社会課題解決を目指す広告プロジェクト「TANZAQ」を通じてサポートいただいています。

"ARROWS"では、隊員のユニフォームやヘリコプター・車両などに広告(ロゴ)を出稿いただくとともに、同社の提供により、災害医療の基礎知識を伝えるコンテンツをHPとSNSで発信しています。



25周年記念感謝状の発行

ピースウィンズ・ジャパンの活動はこれまで、多くの法人様に支えられてきました。3年以上重ねてご支援くださった企業・団体は360社超。うち50社が、10年以上継続してくださっています。コロナ禍で2021年度内の直接の訪問はほとんど叶いませんでしたが、設立25周年を記念した感謝状を発行・送付させていただきました。これからも、企業・団体とのより一層の協働を通じて、民間の知見や資源を掛け合わせた社会課題の解決に取り組んでいきます。

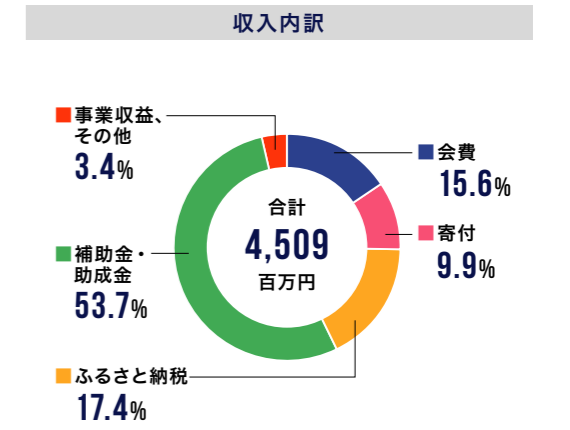
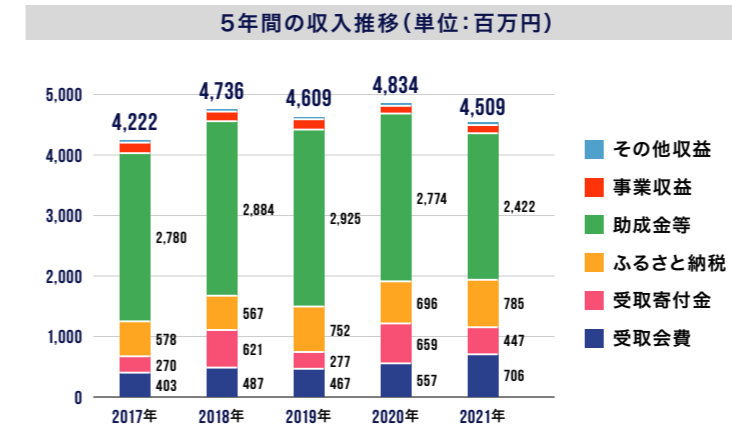
FINANCIAL REPORT 会計まとめ

2021年度の収入は、前年度から7%減少し、45億902万円となりました。減少した主な要因は、新型コロナウイルス感染症の長期化による事業の縮小や遅延、新規事業の中止などにより、助成金や補助金収入が前年度から13%減少したためです。一方で、クラウドファンディングの活用やオンライン報告会による情報発信に努め、海外事業へのご寄付が前年度から800%以上増加しました。企業版ふるさと納税による寄付の増加や、会員数も増加したことで、会費・ふるさと納税の収入は、前年度から19%増加しました。支出は、収入と同様、助成金・補助金事業の縮小によって、前年度から10.4%減少して43億2,653万円となりました。収入には、保護犬事業やアート事業で施設拡充のため、2022年度以降に活用する資金

も含まれています。2021年度を振り返ると、2月に起きたミャンマー国軍によるクーデターや、8月にアフガニстанをイスラム原理主義勢力タリバンが掌握するなど、政治の混乱が続きました。さらに、モザンビーク北部での紛争の悪化や、イスラエルによるパレスチナへの武力攻撃など、紛争の再発や悪化により人道支援の必要性が高まっています。2022年度もウクライナへのロシア軍侵攻など、人道支援がこれまで以上に求められています。支援ニーズが拡大する一方、過去3年間の助成金・補助金の収入は減少傾向であり、資金調達に課題があります。2022年度は既存ドナーへの発信を強化するだけでなく、新規ドナーとして、海外や国内の民間企業との連携強化にも取り組み、支援拡大を目指しています。

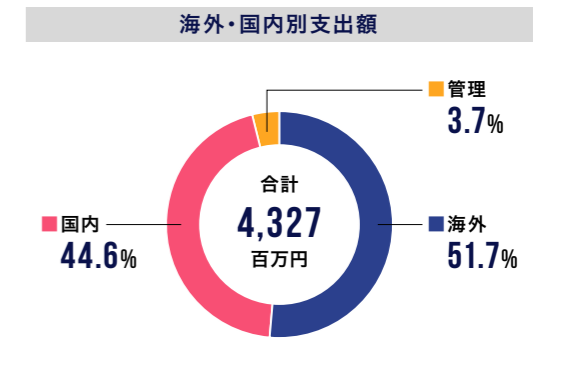
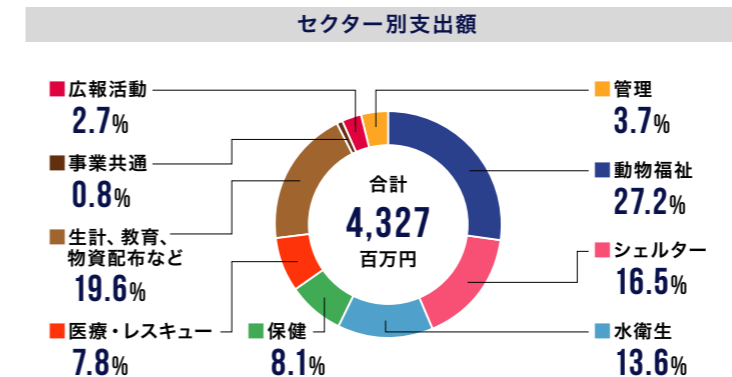
経常収入の推移及び内訳

2021年度の助成金収入の割合が53.7%(前年度より-3.7)に対して、寄付・会費・ふるさと納税による収入が合わせて43%(前年度より+3)となりました。



経常支出の内訳

2021年度の経常支出をセクター別に分けると、1位は、国内の保護犬事業27.2%(前年より+3.3)。2位と3位は、海外の難民キャンプや帰還民へのシェルター支援16.5%(前年より-0.7)と水衛生支援13.6%(前年より-5.6)となりました。コロナ対策としての保健支援が8.1%(前年より+5.0)と上位に加わりました。海外事業と国内事業の比率は、海外事業が51.7%(前年より-0.3)に対して、国内事業は44.6%(前年より-0.5)です。



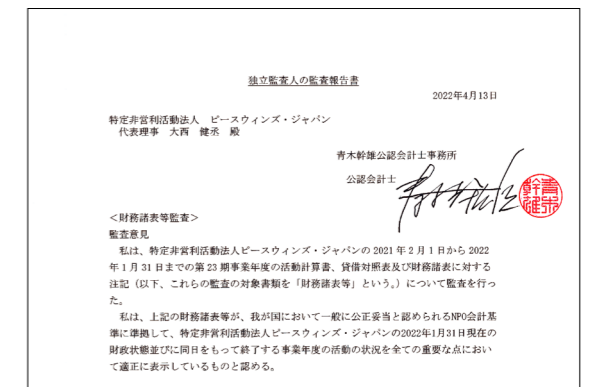
2021年度会計報告

第23期事業年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書 2021年(令和3年)2月1日～2022年(令和4年)1月31日

科目		金額(円)	
I 経常収益	1. 受取会費	正会員受取会費	2,170,000
		賛助会員受取会費	745,000
		ピースサポーター	24,685,212
		ワンだふるサポーター	630,923,569
		ワンだふるファミリー	40,274,000
		ARROWSサポーター会費	3,186,100
		ARROWSメディカルサポーター会費	839,000
		その他受取会費	2,808,900
		受取会費計	705,631,781
	2. 受取寄付金	受取一般寄付金	40,706,345
		受取特定目的寄付金	358,541,636
		物品・現物等寄付収入	47,502,076
		受取寄付金計	446,750,057
	3. 受取助成金等	ふるさと納税交付金	784,624,500
		受取民間助成金	1,031,192,461
		受取補助金	495,138,818
		国連等補助金	895,846,103
		受取助成金等計	3,206,801,882
	4. 事業収益	フェアトレード事業収益等その他売上	87,810,663
		業務委託	9,639,760
		その他事業収益	25,661,688
		事業収益計	123,112,111
	5. その他収益	受取利息	581,959
		雑収益	26,141,441
		その他収益計	26,723,400
	経常収益計	4,509,019,231	
II 経常費用	1. 事業費	(1)人件費	1,111,627,256
		(2)その他経費	3,053,626,477
		事業費計	4,165,253,733
	2. 管理費	(1)人件費	87,237,458
		(2)その他経費	74,034,153
	管理費計	161,271,611	
	経常費用計	4,326,525,344	
当期経常増減額		182,493,887	
III 経常外収益	固定資産売却益	38,716,245	
	為替差益	40,725,730	
	経常外収益計	79,441,975	
IV 経常外費用	固定資産除却損	18,018,758	
	固定資産売却損	10,344,175	
	助成金返還額	1,329,650	
	支払利息	44,726,637	
	有価証券評価損	905,200	
	その他経常外費用	277,071	
	経常外費用計	75,601,491	
税引前当期正味財産増減額		186,334,371	
法人税、住民税及び事業税		880,800	
当期正味財産増減額		185,453,571	
前期繰越正味財産額		141,498,292	
次期繰越正味財産額		326,951,863	

第23期事業年度 特定非営利活動に係る事業 貸借対照表 2022年(令和4年)1月31日時点

資産		負債及び正味財産		
科目	金額(円)	科目	金額(円)	
I 資産の部		II 負債の部		
1 流動資産	現金預金	1,104,904,603	仮受金	187,956
	海外現金預金	294,066,060	未払金	251,348,430
	売掛金	10,549,991	未払費用	345,205
	商品	33,771,614	預り金	15,654,015
	貯蔵品	12,262,860	前受金	603,319
	未収入金	128,827,391	短期借入金	445,000,000
	未収収益	1,002,932	1年内返済予定長期借入金	158,275,361
	立替金	3,437,278	前受助成金等	765,454,299
	前払金	4,518,603	未払法人税等	880,800
	前払費用	13,256,545	未払消費税等	2,499,100
	仮払金	198,296,179		
	未収補助金等	6,470,395		
	預け金	1,525,091		
	流動資産合計	1,812,889,542	流動負債合計	1,640,248,485
2 固定資産	建物	173,441,114	退職給付引当金	37,045,184
	建物付属設備	51,641,662	リース債務	25,779,676
	構築物	60,804,027	長期未払金	751,512
	車両運搬具	5,600,660	長期借入金	775,992,613
	工具器具備品	30,559,525	長期前受収益	133,402
	機械装置	321,555		
	船舶	27,999,995		
	生物	250,456		
	土地	22,582,576		
	美術品	489,940,271		
図書	10,690,934			
リース資産	22,790,094			
建設仮勘定	5,969,068			
	有形固定資産計	902,591,937	負債の部合計	2,479,950,872
電話加入権	385,392			
商標権	355,261			
水道施設利用権	250,286			
借地権	1,857,600			
	無形固定資産計	2,848,539	III 正味財産の部	
子会社株式	5,594,700	前期繰越正味財産額	141,498,292	
投資有価証券	46,898,000	当期正味財産増減額	185,453,571	
長期貸付金	13,231,972			
長期前払費用	825,000			
敷金及び保証金	22,023,045			
	投資その他の資産計	88,572,717	正味財産	326,951,863
	固定資産合計	994,013,193	正味財産の部合計	326,951,863
資産の部合計	2,806,902,735	負債の部及び正味財産の部合計	2,806,902,735	



PWJは、青木幹雄公認会計士事務所による外部監査を受けております。

財務諸表及び外部監査報告書の全体は掲載のURLまたはQRコードよりウェブサイトにてご確認ください。

<https://peace-winds.org/about/report>



2021年度の支援事業一覧

国	目的	事業分類	支援内容	実施場所	受益者数
イラク IRAQ	シリア難民支援	インフラ整備	キャンプ内のインフラ整備・維持管理、シェルター、道路、公共施設の改善	ドホーク州	1,400,114人
		シェルター、生計支援	キャンプ内の住居改善、住居改善工事を通じた雇用機会の提供	ドホーク州、アルビル州	
	帰還民支援	技術訓練	職業訓練研修	ニネワ州	
		水・衛生	給水網整備	ニネワ州	
		インフラ整備	配電網整備	ニネワ州	
	国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む)	保健	ワクチン保管倉庫の修復・建設、ドホーク州新型コロナウイルス感染症対策指定病院の設備整備、キャンプにおける新型コロナウイルス感染症検疫隔離施設の建設	ドホーク州、ニネワ州	
水・衛生		キャンプ内の水衛生環境の維持管理・改善、キャンプ内の新型コロナウイルス感染症検疫隔離エリアでの水衛生施設建設・給水ネットワーク敷設	ドホーク州、ニネワ州		
技術訓練		職業訓練研修	ドホーク州		
シリア SYRIA	紛争被災者支援	生活物資配布	国内避難民および戦闘の影響を受けた世帯の子どもの対象とした冬服の配布	ダマスカス郊外県	691世帯 1,200人
		住宅再建	帰還民及び帰還を望む国内避難民を対象とした、爆撃により破壊された住居の修繕	デリゾール県、アレップ県、ホムス県	125世帯 576人
		教育	爆撃により破壊された校舎の修繕	クネイトラ県	2校500人
		食料配布、水・衛生	国内避難民及びホストコミュニティを対象とした食料・衛生用品キットの配布	アレップ県、ホムス県、ダマスカス県、ダマスカス郊外県	5,100世帯 25,500人
森林火災被災者支援	食料配布、水・衛生	森林火災被災者を対象とした食料・衛生用品キットの配布	ホムス県	1,126世帯 5,630人	
アフガニスタン AFGHANISTAN	食糧危機支援	食糧	社会経済的に脆弱な立場に置かれた人々への食糧支援	ナンガルハール県	6,419人
パレスチナ PALESTINE	紛争被害者支援	保健栄養支援	未就学児の健康診断、栄養治療、家族向け栄養研修および幼稚園の能力強化	テール・エル・バラハ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県	7,684人
		技術訓練	若者を対象とした職業技術訓練センターの設置および研修	北ガザ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県	617人
		食糧、衛生、生活物資配布	空爆による被害を受けた世帯への緊急物資支援	北ガザ県、ガザ県	5,115人
		心理社会的支援	空爆による被害を受けた子どもへの心理社会的ケア	北ガザ県	165人
南スーダン SOUTH SUDAN	国内避難民・帰還民支援 (ホストコミュニティ含む)	水・衛生、医療	国内避難民キャンプ、ホストコミュニティ、医療施設や公共施設にて給水衛生支援、新型コロナウイルス感染症予防支援	中央エクアトリア州、東エクアトリア州	652,713人
	帰還民支援 (ホストコミュニティ含む)	農業	害虫被害を受けた農家およびホストコミュニティへの農業支援	東エクアトリア州	13,008人
ケニア KENYA	難民支援 (ホストコミュニティ含む)	住宅再建	難民世帯の仮設住宅建設	ガリッサ郡	1,707人
		生計向上	キャンプ周辺地域住民への建設技能向上・起業支援	ガリッサ郡	2,885人
		住宅再建	難民居住地区における難民への現金給付による恒久住宅建設支援	トゥルカナ郡	482人
	水・衛生、生計向上	難民居住地区・難民キャンプ・周辺地域における衛生環境改善支援、新型コロナウイルス感染症予防支援、女性の生計向上支援	トゥルカナ郡	79,445人	
害虫被害支援	能力強化、農業	サバクトビバッタ被害を受けたトゥルカナ郡住民への害虫対応能力強化・復興支援	トゥルカナ郡	200,150人	
ウガンダ UGANDA	南スーダン難民支援 (ホストコミュニティ含む)	水・衛生、ジェンダー	難民居住地区に住む難民・ホストコミュニティを対象とした給水衛生支援、トイレ建設や修繕、学校での衛生普及活動、女性支援センターの建設、女性相談窓口設置、職業訓練等	テレゴ県	10,583人
	コンゴ民主共和国 難民支援 (ホストコミュニティ含む)	水・衛生、ジェンダー	難民居住地区に住む難民・ホストコミュニティを対象とした給水衛生支援、小学校のトイレ建設や手洗いタンク設置、衛生普及活動、女性支援センターの建設、女性相談窓口設置、職業訓練等	チェゲワフ県	274,145人
モザンビーク MOZAMBIQUE	サイクロン被災者支援	食糧、給水・衛生、生活物資配布、農業	再定住居地に移住した被災者を中心とした、食糧や生活物資配布、給水施設の建設、住民によるトイレや手洗い設備などの衛生施設の建設支援、農業種子やツールの配布と技術支援等	ソファアラ州	57,080人
	北部紛争被災者支援	給水・衛生、生活物資配布、農業	国内避難民と受け入れ地域住民に対する、給水施設の建設/修繕、衛生用品や生活物資の配布、衛生啓発活動、農業種子やツールの配布と技術支援を通じた生活再建支援等	カーボ・デルガド州	8,000人

国	目的	事業分類	支援内容	実施場所	受益者数
スリランカ SRI LANKA	帰還民再定住支援	農業、コミュニティ開発	農業水利施設の整備による農地の復興と農業収入の多源化による収入向上支援	トリンコマリ県、ムトゥール郡、クッチャベリ郡、パダビシリプラ郡、キンニヤ郡、ヴェールガル郡、モラウエ郡、ゴマランカタワラ郡	11,440人
ミャンマー MYANMAR	緊急人道支援	食糧、保健、給水・衛生	国内避難民への給水・衛生物資・食糧配布、貧困世帯への食料セット配布及び妊婦への出産支援キット配布	ヤンゴン郊外、カヤー州、カレン州、モン州、バゴー地域	19,063人
		難民帰還促進・衛生改善支援	給水・衛生	給水施設の建設および維持管理研修や衛生教育講習	カレン州バアン地区、ミャワディ地区、ラインプエ地区
ネパール NEPAL	ネパール大地震被災者支援	水・衛生、農業	水へのアクセス改善と野菜栽培導入による小規模農家の生計向上支援	シンドゥバルチョーク郡	2,806人
		新型コロナウイルス変異株危機対応支援	保健	新型コロナウイルス隔離センターの設備拡充支援	シンドゥバルチョーク郡
モンゴル MONGOLIA	子ども支援	子どもの保護	貧困家庭の子どもたちの自立支援	ウランバートル市	47人
東ティモール EAST TIMOR	地域開発支援	コーヒー生産者自立	コーヒー品質管理体制強化による小規模コーヒー生産者支援および支援地域の拡大	エルメララシテフォホ郡・ティリ県ティリ市	2,625人
		サイクロン被災者緊急支援・生活インフラ修復支援	食糧、保健、給水、衛生、防災、生活再建	「サイクロン・セロージャの被災者に対する物資配布および生活インフラ修復事業」	ティリ県及びその他被災地域
ハイチ HAITI	コミュニティ支援	防災、建設技術支援、衛生	コミュニティセンター4棟の建設、維持管理委員会の組織、防災教育および衛生教育	南県シャンタルコミュニケーション	21,719人
	生計支援	生計向上	カシュー加工・販売を行う女性生計グループ支援	南県サンジャン・ドゥ・スードコミュニケーション	800人
	地震被災者支援	生活物資、水・衛生	2021年8月大地震被災者への生活物資・衛生キット配布ならびに給水支援	南県トーベックコミュニケーション、キャンプベリ・コミュニケーション	3,750人
バングラデシュ BANGLADESH	ミャンマー難民支援	保健・医療	難民キャンプ14内での診療所運営、母子保健サービスの移動式診療と啓発活動、キャンプ内及び周辺地域の保健人材育成、コミュニティでの保健衛生啓発活動や脆弱者支援	コックスバザール県ウキア郡・テクナフ郡	65,691人
		大規模火災被災者支援	保健・医療、食糧、生活物資配布	被災したキャンプ8E、8W、9で移動式診療による基礎的医療サービスの提供、及び近隣被災住民も含めて食糧・衣類・衛生用品を配布	コックスバザール県
インドネシア INDONESIA	地震・津波被災者支援	農業・給水、防災	農業再開のための灌漑施設や農地整備・種子配布、災害リスク管理能力強化支援	スラウェシ島中部スラウェシ州	6,113人
パラオ PALAU	病院船による島嶼部での生活習慣病予防体制の強化支援	医療・保健	島嶼部での病院船による巡回検診・診療と非感染性疾患(生活習慣病)の予防体制の強化	コロ州、ペリリュー州、アンガウル州	53人
トンガ TONGA	海底火山噴火被災者支援	食糧、生活物資	航空機による食糧・日用品・清掃道具の運搬および配布	トンガタブ島・ハアパイ諸島	350世帯
アメリカ AMERICA	竜巻被災者支援	食糧、生活物資	安全なシェルターや温かい食事、救援物資の提供	ケンタッキー州	1,500世帯
日本 JAPAN	伝統工芸振興	地域創生事業	佐賀の伝統工芸の商品開発、助成、情報発信、販路開拓等の振興支援	佐賀県	不特定多数
	西日本豪雨被災者支援	災害支援	コミュニティ再構築、防災	岡山県倉敷市真備町、広島県呉市、安芸郡坂町	不特定多数
	東北復興支援	災害支援	活動拠点の運営準備	宮城県南三陸町	地域住民 (不特定多数)
	地域防災力強化	災害支援	防災	高知県、熊本県、佐賀県、岡山県、広島県、東京都	不特定多数
	2021年豪雨被災者支援	災害支援	物資支援など	佐賀県、広島県	不特定多数
	新型コロナウイルス対策緊急支援	災害支援	医療支援、物資支援、高齢者施設支援など	全国	不特定多数
	犬の保護・譲渡など	動物保護活動	犬の保護・譲渡活動、シェルター・譲渡センターの運営、災害救助犬・低血糖アラート犬の育成など	広島県、岡山県、東京都、神奈川県、奈良県	不特定多数
	馬の保護	動物保護活動	元競走馬2頭のリトレーニング	福島県	不特定多数
	花粉症対策	環境保全活動	植樹した山林のモニタリング	広島県神石高原町	-
	医療支援	地域創生事業	過疎地の病院、診療所における診療支援、訪問診療支援	広島県	地域住民 (不特定多数)
芸術振興・まちづくり	地域創生事業	瀬戸内海の無人島で現代芸術家の作品の公開、海の駅運営支援	愛媛県	不特定多数	

※受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。

VISION

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、
希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

1. 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
2. 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
3. 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
4. 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
5. 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

MISSION

特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン

ピースウィンズ

検索

本部事務所


〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F
TEL.0847-89-0885(代) FAX.0847-82-2949

東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2F
TEL.03-5738-8020(代) FAX.03-3465-2112

佐賀事務所

〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6F
TEL.0952-20-1607(代) FAX.0952-20-1608



 ピースウィンズ・ジャパン

 @PeaceWindsJapan

 @peacewindsjapan

COMPANY PROFILE (2022年1月末現在)

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
スタッフ数	計453人(国内スタッフ221人、海外現地スタッフ232人)
代表理事	大西 健丞
理事	石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏
監事	川合 孝一

 meet@peace-winds.org  <https://peace-winds.org>

寄付金控除の対象です

PWJは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりPWJへの寄付は税金控除の対象となります。(正会員会費は対象外です。)

ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人や動物のために大切に使わせていただきます。PWJの寄付金等取扱規程はWEBサイトでご覧いただけます。
https://peace-winds.org/support/pdf/A13kihukin_20210319.pdf

詳しくは、支援者サービス係までご連絡、
もしくはPWJのWEBサイトをご覧ください

0120-252-176

平日 10:00~17:00

ピースウィンズ 受付

検索

<https://peace-winds.org/support>

